

■塙保己一 国学者。盲目ながら、「群書類従」編纂刊行の大事業を成し遂げ、堅実な考証で近代史学を先駆。
はなわほきいち
菅原伝授十・1746＝ 武蔵国児玉郡保木野村で、小野篁をルーツとし、帰農した豊臣氏の武士の末裔荻野宇兵衛の子に生まれる。
母は名主の娘。

・ ・ ・ ・ ・ 1750＝ 4歳：肝の病を患い、眼を悪くし、母に背負われて眼科医に通うも、
徳川吉宗没・1751＝ 5歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1752＝ 6歳： 一 ついに、失明。

自然真営道・1755＝ 9歳：

源内物産会・1757＝11歳：母を失う。

大岡忠光没・1760＝14歳： 父に願い、江戸に出て雨富検校須賀一に入門、鍼術や音曲などを修得。
・ ・ ・ ・ ・ 1761＝15歳： 自己の天分と仕事との矛盾に悩み、自殺まで考えたが翻意。「般若心経」読誦により悟る。
この間、 雨富検校の隣家にいた松平乗尹に認められて、書を教えられ、
・ ・ ・ ・ ・ 1763＝17歳： 衆分に進む。 一 その縁で、山岡明阿に律令、萩原宗固に歌文を学ぶことを、雨富検校に許され、
加賀千代句集1764＝18歳：

忠臣蔵大当り1766＝20歳：雨富検校の勧めで、父とともに伊勢神宮ほか関西旅行。以後、健康状態良好となる。

・ ・ ・ ・ ・ 1769＝23歳： 萩原宗固の勧めで賀茂真淵に六国史などを学びはじめるも、直後に、真淵が死去。

一 以後も各種の勉強会などに出席して研鑽を進め、太田南畝ら文人の支援も受けるようになり、
田沼意次老中1772＝26歳：
大原騒動・ 1773＝27歳：
解体新書・ 1774＝28歳： 戯文競技の宝合に出席、その記録の序文。雨富検校に学業の進捗を認められ、百兩の奨学金を授けられ、
黄表紙始・ 1775＝29歳： 一 その資金で勾当にすすみ、塙保己一を名乗る。雨富検校の家を出て高井実員宅に移る。

源内獄中死・1779＝33歳： *天満宮に大叢書の編纂を祈願、「群書類従」に着手。さらに別の邸に移り、入門する弟子も増える。

一 入門してきた屋代弘賢のサポートや人脈によって、展望が開き、
天明大飢饉始1782＝36歳： 医師の女と結婚。
蘭学階梯・ 1783＝37歳： 一 検校にすすむ。萩原宗固の勧めで日野資枝の門に入る。
意知刺殺事件1784＝38歳： 面倒を見てくれた雨富検校が死去。
蝦夷初調査・1785＝39歳： 妻と離縁。
田沼意次失脚1786＝40歳： 一 「群書類従」の見本版「今物語」を刊行、宣伝を開始。

・ ・ ・ ・ ・ 1788＝42歳： 「花咲松」。
初の横綱・ 1789＝43歳： 一 この年より、水戸の彰考館に召され「大日本史」の校正にもあずかる。

混浴禁止・ 1791＝45歳： 一 座中取締役になる。
アキマン来日・ 1792＝46歳： 江戸大火で居宅が全焼。別地を得て新居を建築。板木も失うが、訪ねてきた上野国の修験者に勧められ、
松平定信引退1793＝47歳： *幕府に願い出て、土地を拝借、和学講談所を開設し、
オランダ 正月・ 1794＝48歳： この年まで43冊しか開板されなかったところ、
写楽・ 1795＝49歳： 父が死去。
ブートン来航・ 1796＝50歳： 一 この年から「群書類従」毎月4冊刊行の見通しがたつ。
昌平饗始・ 1797＝51歳： *「群書類従」開板130冊に達し、板木倉庫用地を求める。この年、幕府が林家の塾を昌平坂学問所とし、漢学
中心の官版刊行を盛んにするなど、幕府側にも学問重視の影響を及ぼすに至り、
古事記伝・ 1798＝52歳： 一 幕府へ国史・律令の類刊行のための資金借用を願い出、義務として、校訂した「日本後紀」を板行、
蝦夷地直轄始1799＝53歳： 一 座中取締役を辞任。その間の活動に対する褒美として白銀20枚を受け、紀伊徳川家への出入り許可。
伊能測量始・1800＝54歳： 一 幕府への義務として、校訂した「令義解」を板行、

いづノ報復・ 1806＝61歳： 幕府から六国史以降修史事業「史料」編纂の試行が指示され、「武家名目抄」編纂の命を受ける。
フェトン号事件 1808＝62歳： 一 正式に、「史料」編纂を命じられ、年々50兩の支給を受けるなどして、半官半民の事業になり、
浮世風呂・ 1809＝63歳：

一 大坂の豪商鴻池屋の番頭を始め、各所よりの資金その他の援助も多数受けて、

水野忠成老中1818＝72歳：
群書類従完結1819＝73歳： *40年を費やして「群書類従」の刊行を完了。
一 ついで続編の計画を進め、
伊能図完成・1821＝75歳： 一 総検校になるが、病氣により辞職、隠居後、没した。

吉川弘文館人物叢書、「人づくり風土記(埼玉)」,「日本史を変えた人物200人」,「この人どんな人」,「没年日本史人物事典」,「日本の群像」, 平凡社百科事典, 山田風太郎「人間臨終図巻」,「目でみる日本人物百科」,